

第2回 都市交通調査の深度化に向けた検討委員会
議事概要

日 時：令和5年01月25日（水）10:00-12:00

場 所：オンライン

主な議論の概要は以下の通り

1) 全国 PT 調査データを活用したシミュレータの検討

- ・ 個人生成モデルについて、全国 PT 調査のような小サンプル調査のみで、都市によって特性が異なる属性情報を生成するだけではなく、自動車登録や免許関係の他のデータとつなげることや、携帯電話基地局データ等のビッグデータをインプットして自動車保有率をアウトプットするような回帰モデルを作ることも考えられる。

2) シミュレータの補正に関する検討

- ・ 携帯電話基地局データから滞在時間の変化を把握する等、交通系 IC カードや ETC2.0 等も含め他データを組み合わせることにより、本シミュレータの活用の幅が広がることも考えられる。
- ・ 今後郊外に高密度に基地局を設置していくことは考えづらいことから、自動車依存度が高い地域に対しては、むしろ ETC2.0 の活用可能性が高いのではないかと。
- ・ 域外からの来訪者等の PT 調査の非調査対象者の情報はシミュレータの補正等への活用が見込める。その際、域外来訪者は秘匿の影響が大きいと、発地側と着地側の空間解像度を調整する必要がある。
- ・ インバウンド観光客は場所によっては母数が少なくないという点、行動原理が居住者と異なるため、注意を要する。

3) その他

- ・ 過去の全国 PT 調査のデータも活用し、例えばデッキの有無等の都市施策の実施有無をゾーンの説明変数にしたり、都市政策が異なるゾーンを全国 PT 調査でサンプリングすることにより、政策の実施による行動の変化を表現できるとよいのではないかと。
- ・ ゾーン設定について、例えば駅まち空間規模の検討では小ゾーン設定が望ましいが、PT 調査や携帯電話基地局データの分析から得られるアウトプットは同規模となるのは難しい。施策のスケール感に応じたアウトプットをどう提供できるか、留意すべき。
- ・ 行政職員向けに、本シミュレータ活用時の留意事項や、地域特性を踏まえ調整を要する事項等のリストを用意することを検討していくべき。
- ・ このシミュレータの汎化性能をどこまで上げられるか、シミュレータの結果をどう活用していくか、またシミュレータで再現しきれない事項等の限界がある部分に対してどう対応するか、という見取りを整理するとよい。

以上